

海外留學生の健康診断の記載の注意事項(2012)

【視力検査】

uncorrected vision	R	20/200	L	20/100	0.1以下	20/200	
	R	20/20	L	20/20	1.0以上	20/20	
with lenses or glass					0.01	20/200	
	裸眼	R	0.1	L	0.2	0.3	20/60
	レンズ・眼鏡 矯正後	R	1.0	L	1.0	0.7	20/30
						1.5	20/20
					2.0	20/20	

【血液型】 A-group, RhD(+) A型(+)

【身長】 162 cm 63.8 inch [inch(インチ) = m × 39.4]
 【体重】 50 kg 110 lbs [lbs(ポンド) = kg × 2.2]

【抗体検査】 未罹患・未接種であっても、検査をする前に接種してはいけない。
 陰性のものだけ接種する。陽性は検査法と数値を記載し追加接種不要を明記する。

麻疹[NT法] 1:4以上、[PA法] 1:256以上 おたふくかぜ[ELISA/IgG法] 6.0以上
 風疹[HI法] M)1:16以上、F)1:32以上 水痘[ELISA/IgG法] 4.0以上

【Mantoux test】 ツベルクリン検査

induration [硬結・膨疹]の横径で判定する。
 5mm以上 弱陽性 胸部X-rayは不要
 10mm以上 陽性 胸部X-rayで結核を否定
 15mm以上 強陽性 予防薬を9ヶ月間服用

erythema [紅斑]は通常記載しない。
 日本人は紅斑が目立つので不利。過剰に判定される危険がある。
 indurationだけではなく、erythemaも記載して、区別すること。

記載上の注意 日本の旧来の記載方法を利用する。日本の判定基準を記載する。

$\frac{a \times b}{c \times d} \cdot (e \times f)$ $\frac{\text{硬結(膨疹)}}{\text{紅斑}} \cdot (\text{二重発赤})$

予防接種の記載は母子手帳を参考にすが、ツベルクリンだけは利用しない。
 学校に入学予定の人は、基本的に検査して適切に記載する。
 強陽性者はQFT(クワンティフェロン)で、結核を否定しておく。

